

殺虫剤 登録番号 第16575号

オンコル粒剤5

(ベンフラカルブ粒剤)



有効成分	ベンフラカルブ 5.0%
性 状	青緑色細粒
毒 性	普通物
有効年限	4 年
包 装 (1ケース)	500g×40袋 3kg×8袋
化管法	ベンフラカルブ（1種） 5.0%

特長

1. 植物全体に速やかに浸透移行するので、生長の盛んな部分を含め植物全体を害虫から守ります。
2. 残効が長く、水稻の育苗箱散布でイネミズゾウムシに対する効果は40～50日間期待できます。
また野菜類のコナガやミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマに対しても定植直前の処理で、20～25日間効果が期待できます。
3. 広い殺虫スペクトルをもち、広範囲の害虫に有効です。
4. 安定した殺虫力をもち、抵抗性害虫に対しても効果が期待できます。

適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	使用量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンフラカルブを含む 農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ イネハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5 ℓ) 1箱当り30～60g	移植前3日 ～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回
	ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5 ℓ) 1箱当り50～80g				
	イネシンガレセンチュウ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5 ℓ) 1箱当り60g				

適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	使用量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンフラカルブを含む 農薬の 総使用回数	
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネヒメハモグリバエ イネハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5ℓ) 1箱当り30～60g	移植前3日 ～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	
	ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～80g					
	イネシンガレセンチュウ	育苗箱 (30×60×3cm 使用土壌約5ℓ) 1箱当り60g					
とうがらし類	ミナミキイロアザミウマ	0.5g／株	育苗期後半 又は定植時	1回	株元散布	3回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 培土時の土 壌混和及び 株元散布は 合計1回以 内、散布は 1回以内)	
ひろしまな	アオムシ モモアカアブラムシ	1g／株	育苗期後半				
メキャベツ 非結球メキャベツ	アブラムシ類		定植時				
らっかせい		9kg	は種時		全面土壌混和		
さといも	コガネムシ類幼虫	6～9kg	生育期 (但し、収穫 60日前まで)		株元土壌混和		
	アブラムシ類						
さとうきび	コガネムシ類幼虫 ハリガネムシ類 メイチュウ類		植付時		1回		植溝土壌混和
	コガネムシ類幼虫	9kg	培土時		1回		株元散布又は 株元土壌混和
	メイチュウ類	4～6kg					
	カンシャコバナナガカメムシ	6kg	収穫100日前 まで		1回		散布
飼料用さとうきび	コガネムシ類幼虫 ハリガネムシ類 メイチュウ類	6～9kg	植付時	1回	植溝土壌混和	1回	
	コガネムシ類幼虫	9kg	培土時		株元散布又は 株元土壌混和		
	メイチュウ類	4～6kg					
花き類・ 観葉植物（きく、 ストックを除く）	アザミウマ類	6kg	生育期	3回以内	株元散布	4回以内	
きく	ミナミキイロアザミウマ	6～9kg	定植時	1回	植溝土壌混和 又は 株元散布		
	ミカンキイロアザミウマ	9kg	生育期	3回以内	株元散布		
ストック	コナガ	0.5g/株	定植時	1回	全面土壌混和		
	アザミウマ類				株元散布		
樹木類（つつじ類 を除く）	アブラムシ類	6kg	生育期	3回以内			
つつじ類	コガネムシ類幼虫	9kg	定植時	1回	全面土壌混和 又は 株元土壌混和		
たばこ	アブラムシ類	6kg			作条土壌混和		
	アザミウマ類	3～6kg					



1. 本剤を使用した場合には、カルボスルファンを含む剤は使用しないでください。
2. 使用量に合わせ秤量し、使いきってください
3. 水稻の育苗箱に使用する場合
 - ① 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
 - ② 軟弱徒長苗、ムレ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
 - ③ 稲苗の葉が濡れている場合は薬害が生じやすいので、葉に付着している露を払い落としてから薬剤を散布し、軽く散水してください。
 - ④ 誤って過剰に使用すると葉先枯れ等の薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守してください。
 - ⑤ 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけてください。
 - ⑥ 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意してください。移植後は直ちに湛水し、極端な浅水、深水はさけてください。また、深植にならないように注意してください。
 - ⑦ 本田への移植後低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけてください。また、移植後極端な高温が続くと予測される場合も使用をさけてください。
4. たばこに使用する場合
 - 1) 過剰に使用すると葉縁が黄化するなど薬害を生じるおそれがあるので、使用量および使用回数を厳守してください。
 - 2) 育苗期に使用する場合には、育苗期後半（定植7日前から定植時）に使用し、前半の使用はさけてください。
 - 3) 軟弱徒長苗では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
 - 4) 高温乾燥期は薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
5. ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
6. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
7. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
8. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
9. 誤食などのないよう注意してください。
 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
 使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
10. 本剤による中毒に対しては、動物実験で硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されています。
11. 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し眼科医の手当を受けてください。
12. 使用の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
13. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のないものが使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
14. 水稻(箱育苗)に使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ① 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
 - ② 水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。

15. 畑地に使用する場合は、次の事項に注意してください。

水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

16. 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

※ たばこに使用する場合は、日本たばこ産業株式会社の指導を受けてください。

貯蔵上の注意

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥し子供の手の届かない場所に密封して保管してください。
